

口永良部島の火山活動について(第4報)

1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省 5月29日 10:08 非常体制「当該災害に関する対策本部設置」

九州地方整備局 5月29日 10:08 非常体制 九州運輸局 5月29日 10:08 非常体制

国土地理院 5月29日 10:08 非常体制 気象庁本庁 5月29日 10:07 非常体制

国土技術政策総合研究所 5月29日 10:08 非常体制

2. 噴火の概要

○新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生しました。

○この噴火により、噴煙が火口上9,000m以上まで上がりました。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側(向江浜地区)方向の海岸まで達しました。

○その後、5月29日09時59分に発生した噴火は、30日10時50分に停止した模様。

3. 気象の見通し

○前線を伴った低気圧が、今日30日夜に九州南部を通過する見込み。この影響で、種子島・屋久島地方を中心に1時間40ミリの激しい雨の降るおそれ。明日31日12時までの24時間に予想される雨量は100ミリの見込み。

今日30日夕方から明日31日明け方まで、落雷や突風、急な強い雨に注意。

4. 島民の避難状況(島民等138名が屋久島に避難完了)

○番屋ヶ峰から3名が防災ヘリにより搬送済み。(火傷1名、心臓病1名、付添者1名)

○湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に收容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。

○番屋ヶ峰の避難者125名乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港へ5/29 17:30に到着し、5/29 18:45ごろに乗船者全員が無事に上陸

○そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。

○29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。(消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。)

○屋久島の3カ所の避難所は次の通り。

- ・宮之浦老人憩いの家
- ・宮之浦公民館
- ・屋久島町福祉センター

5. 国土交通省の対応

・5/29 11:50 第1回対策本部会議開催(大臣指示)

・5/29 14:50 第2回対策本部会議開催

・5/30 10:30 第3回対策本部会議開催

・5/30 12:15 うえの政務官が現地入りし鹿児島県知事と意見交換等を実施

・屋久島町長と電話会談

・鹿児島県知事と意見交換

・第10管区海上保安本部における激励

※天候の悪化により、防災ヘリによる上空からの調査と屋久島町長との直接の会談ができなかった

○リエゾン(情報連絡員)派遣

- 海上保安庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2				5
屋久島町	2	0				2
合計	5	2	0	0	0	7

- 気象庁より1県1町へ、のべ7人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	1				3
屋久島町	2	2				4
合計	4	3	0	0	0	7

- 九州地方整備局より1県1町へ、のべ11人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2				5
屋久島町	3	3				6
合計	6	5	0	0	0	11

- 九州運輸局より1県へ、のべ4人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	2				4
合計	2	2	0	0	0	4

○OTEC-FORCEの派遣

- 九州地方整備局より、防災ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海煙による資機材運搬、情報収集のため、のべ19人・日派遣(5/29~30)。

(単位:人)

派遣元	派遣内容	5			6		合計
		29	30	31	1	2	
九州地整	被災状況調査(ヘリ)	4	3				7
	映像配信	2	2				4
	資機材運搬	2	2				4
	情報収集		1				1
	現地活動支援		3				3
合計		8	11	0	0	0	19

○防災ヘリコプターによる状況調査

- 九州地方整備局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査をTEC-FORCE及び福岡管区気象台で実施(5/29)。火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- 九州地方整備局防災ヘリコプター(鹿児島空港8:23離陸)による口永良部島上空からの調査をTEC-FORCEで実施(5/30)。

○災害対策用機械等出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働中	5/29~
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	待機中	5/30~
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	待機支援車	1	移動中	5/30~

○調査観測兼清掃船「海煌(かいこう)」出港

九州本島との資材運搬等の輸送に備え、熊本港湾・空港整備事務所の「海煌」が八代港を出港
5/29 13:30 八代港出港
5/30 00:45 鹿児島港入港
乗船可能人員 12名(乗務員除く)

6. 気象庁の対応

- 5月29日10:07 噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き
- 5月29日10:40 火山の状況に関する解説情報を発表
- 5月29日11:10 九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実
- 5月29日11:30 記者会見
- 5月29日13:30、18:00 気象庁災害対策本部会議
- 5月29日16:00 火山の状況に関する解説情報の定期的な発表を開始(毎日10時、16時)
- 5月29日 復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供を開始(毎日5時、11時、17時頃更新)
- 5月29日 気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設
- 5月30日06:40 鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施

7. 海上保安庁の対応

5月29日

■巡視船・測量船

- 「拓洋」が本村港沖に到着(1150)。要救助者搬送準備・フェリー太陽の入港支援を実施
- 「さつま」が湯向港沖に到着(1232)。搭載艇により島民6名を「さつま」に救助後、ヘリで屋久島空港まで搬送
- 「明洋」が湯向港沖に到着(1500)。即応待機
- 「とから」が、フェリー太陽の伴走警戒を実施(1542)
- 「こしき」が本村港沖到着(1600)。鹿児島から搬送した「警察22名、消防7名」のうち「警察10名」を口永良部島に搬送
- 「くさかき」が鹿児島から「日赤医師等7名及び救援物資」を屋久島に搬送(1740)

■航空機等

- ヘリが番屋ヶ峰避難所上空に到着(1158)。機動救難士が避難所に降下し傷病者2名(火傷1名、心臓病1名)を救助、県防災ヘリへ引継
- 「特殊救難隊(1個隊)、関西航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)、福岡航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)」を鹿児島基地に前進配備

5月30日

- 巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

8. 国土地理院の対応

- ・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開(5月30日)
- ・人工衛星(だいち2号)データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開(5月30日) URL:<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

9. 所管施設等の状況

○道路関係

- 本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報
- 本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

○河川関係、ダム関係、公営住宅関係、公園関係、宅地関係、下水道関係、官庁施設関係、鉄道関係、自動車関係、航空関係、海事関係、港湾関係、物流関係、観光関係等

- ・現時点で被害情報なし

問合せ:水管理・国土保全局防災課災害対策室 池本 代表:03-5253-8111 内線35-822 直通:03-5253-8461
